



学校だより

平成29年 5月31日
横浜市立茅ヶ崎東小学校
校長 山下 浩
都筑区茅ヶ崎東2-11-1
943-0802・0803

自然の形から

副校長 高橋 美都子

吹く風が心地よいこの頃です。校庭の木々は太陽の光をいっぱいを受けて、葉を青々と茂らせています。1年生のあさがお、2年生の自分で選んだ野菜、3年生のホウセンカやヒマワリ、4年生のツルレイシ、5年生の蒔いた種もみも子どもたちがしっかり世話をして、順調に育っています。急に気温が高くなり、校外学習や遠足に出かける学年にとっては「良すぎる」天候の日もありましたが、植物にとってはまさに、恵みの光となっているようです。

さて、校庭には植物だけでなく、鳥や昆虫もやってきます。休み時間にはダンゴムシを両手に持って、私に紹介してくれる子もいます。ダンゴムシといえば、その形状からヒントを得て作られた、空港に置かれるラウンジがあるそうです。その個室のようなラウンジには様々な設備があり、搭乗時間に遅れないように目覚まし時計まで搭載されていて快適な環境となっているそうです。このように、自然界の生き物が持っているすぐれた仕組みを積極的に取り入れて作りだされたデザインを、バイオミクリー（バイオメティクス）というそうです。他の例では、500系新幹線のパンタグラフの取り付けの部分は、夜に音もなく飛ぶフクロウの羽を模しているそうです。フクロウの羽には他の鳥にはないギザギザがあり、これが空気をうまく逃がして抵抗を少なくしています。その羽の形をパンタグラフに応用したところ、騒音を30%もカットすることができた、ということなのです。また、蚊の針にはナノレベルの突起があり、その突起を模してつくられた注射針は、赤ちゃんも泣かないほど痛みを感じにくくできています。植物でいえばハスの葉は水が付きにくく、雨や露が水玉となって転がります。表面にはワックス成分と繊毛があり水をころころと転がす仕組みになっています。この液体が付きにくい仕組みを傘やヨーグルトの蓋にいかしているということです。

梅雨に入る前のひと時、ゆったりと自然に向き合い、自然の美しさや細やかさ、その仕様の素晴らしさを楽しむのも良いかもしれません。そしてその中から、将来私たちの生活を豊かにしてくれる発想が浮かんでくるのかもしれません。

今年も地域の方の協力を得て、5年生の米作りが始まりました。クラスで発芽をさせ、バットに蒔き、水やりを行い、いよいよ田植えになります。秋には豊かに実った姿を今年も見せてくれることでしょう。多くの人の手を借りて行う米作りです。子どもたちにとっては楽しみな、そして実り豊かな活動になることを期待しています。今後ともご協力とご支援をよろしくお願いいたします。